

緑の相談コーナーだより



いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

今月の便り

斑入りの植物

葉色が単色でなく、緑色の地に黄色系あるいは白色系の斑点やストライプなどが入っているものを「斑入り」と呼びます。赤色系が入っている場合は基本的に白色も一緒に入っています。一般的に斑入り葉がカラーリーフと分けて考えられるのは、これらが自然界の突然変異や、それを人の手によって安定させたグループだから。年を越すと斑がなくなってしまう「先祖返り」の例や、逆に突然斑が現れるような例もこのために起こるのです。ただ実際のガーデニングでは、カラーリーフプランツと同じように使えます。例えば白斑が多く入っている葉を遠目に見るとシルバー系に見えますし、特にイエロー系のカラーリーフプランツは種類が少ないので、黄色系の斑が入った葉を持つ植物を使えば、さらに庭のカラーコーディネートが広がります。(たかはし)

秋のイモムシ

葉を食べる害虫としての芋虫は8月下旬あたりからも見つけて駆除するのが大事です。人間が触れると皮膚が被れるドクガは、秋も様々な庭木、好んではバラ科の植物などに、卵から生まれてしばらくは体長1センチで100匹単位の集団で葉裏などにいる時があります。しっかり手袋で皮膚を守って葉ごと切って駆除してください。集団の時にみつけることが駆除のポイントなので庭のパトロールは怠らずに。越冬前に駆除できれば春の安心に繋がります。秋大根などを育てている人は黒いイモムシに注意。アブラナ科の葉を食害するニホンカブラハバチです。黒い身体は見つけやすいので、捕殺しましょう。生き物を殺すのは忍びないと思う人もいると思いますが、どうやっても一匹残らず見つけ出せるわけではないのです。虫は地味に生き残ります。薬剤を無駄に散布して絶滅させ、環境を壊すよりは良いでしょう。とはいえ11月は土中で虫達はすでに越冬をはじめます。春先に気をつけてください。(きのした)

大根のルーツ

秋野菜の代表とも言える「ダイコン」の原産地はどこで、いつ頃生まれたのかを調べてみましたが、原産地は特定されていなく、地中海沿岸と言う説が有力視されています。ダイコンの歴史についても諸説あり、今から5000年以上前にさかのぼるようで、エジプトのピラミッド建設に従事した労働者に配給された記録があり、当時は薬としても利用されていたようです。その後、地中海沿岸から中央アジア、シルクロードを経て、奈良時代に日本へ伝わったと考えていますが、さらに調べると「古事記」の仁徳天皇の歌の中に登場する「おほね」がダイコンであり、奈良時代以前に日本に存在していたと言う説もあります。古くは「大きな根」の意味で「おほね」(現代かなづかいで書けば「おおね」と呼び、「大根」の字を当てていたものが、いつしか音読みされて「だいこん」で通るようになったようです。大根には、ビタミンCをはじめ、ビタミンB群やカリウム、鉄分など多彩な栄養素が含まれています。(ながやす)

ヤブラン

ヤブランは、性質が強く、丈夫で手のかからない植物で、古くから緑化や造園の植栽として広く利用されています。耐寒性と耐暑性が強く、日なたから日陰まで幅広い環境に適応し、土質もあまり選びません。革質の細長い葉は、しなやかで堅く、8月から10月には長い穂を伸ばして、青紫や白色の花を咲かせます。ジャノヒゲに似ていますが、ジャノヒゲは青紫の実がなり、ヤブランは黒い実がなるので区別できます。葉は、長さ30～60cmで花茎の高さが30～50cmです。ヤブラン属は5種があり日本には、ヤブラン、ヒメヤブラン、コヤブランの3種が自生しています。そのうちヒメヤブランは北海道の西南部にも自生し花期は7～9月で、地面から伸びた10～15cmの花茎の先に複数の花を咲かせます。また斑入りや花色の異なるものなど20ほどの園芸品種があり最もポピュラーで栽培量も多いのは明るい黄色の縦縞が入る斑入りヤブランですが緑葉のヤブランより実の付き方が少ないようです。(いとう)



緑の相談コーナー Q & A



庭土の種類と使い方②

- | | |
|----------|---|
| 軽石 | 弱酸性で赤玉土と同じ性質をもち、保水性・排水性があり、挿し木・さつき・つつじに良く使われます。 |
| ピートモス | 腐葉土より細かく、水苔が堆肥、発酵分解したもの。ブルーベリーに使う。コンテナの土や花壇の改良土として利用します。酸性の強いものは苦土石灰でpH調整をする。 |
| 腐葉土 | 落ち葉を腐らせたもので保水性・通気性・保肥性に富み、土壌を柔らかくする改良土。赤玉土と混ぜて良く使われます。 |
| バーミキュライト | ひる石を高温で焼いたもの。保水性・通気性に富み、清潔なので挿し木に。保水性があるのでコンテナガーデンにもよく使います。 |
| パーライト | 光沢が真珠ににているので、パーライトとよばれるそうです。保水性・通気性に優れ軽いのでコンテナ用にも使います。また粘土質の改良に使います。 |

ひとつき ひとバラ



文： 曾 根 浩 太
(いわみざわ公園バラ園)



第百十九回

フロリバンダローズ

メルヘンツアウバー

Märchenzauber

作出国：ドイツ

作者：Tim Hermann Kordes

作出年：2003年

ハーディネスゾーン：Z5

四季咲き

交雑：Unnamed Seedling × Focus®

雪虫も飛んで徐々に冬が迫ってきましたね。バラ園でも葉むしりが終わり、花がなくすっかり寂しい景色となってきました。皆さんも冬支度で忙しくしているのでしょうか。今回は名前も花色も花形もかわいいメルヘンツアウバーをご紹介しますと思います。メルヘンツアウバーはアプリコットピンクのロゼット咲きで中輪の房咲き品種になります。花の中心から外側に向かってグラデーションのような配色になり、特に秋の色合いは心がときめくような可愛いバラです。コルデスには珍しく葉はマットで少し濃いめの緑色です。高さは90cm、幅は70cm程度に成長します。これだけ聞くとコンパクトに思えますが、樹勢が強く太い枝も多く出すのでコンパクトな印象はなく、みるからに強健そうな樹形になります。当園では整形式花壇のアースソングの横に植栽されています。アースソングがさらに強い樹勢なので高さが低いメルヘンツアウバーは少し埋もれた印象かもしれません。耐寒・耐病性にも優れており、夏が過ぎても無農薬で葉をほとんど落とさない品種になります。作者は Tim Hermann Kordes さん。グレーフィン ディアナやジャ

スミーナ等 ADR を受賞しているバラも作出している方です。この方が作出したバラは本当に耐寒性、耐病性に優れているものが多く、北海道では安定した美しさを保ち、当園でも成績の良いバラが多いです。メルヘンツアウバーも ADR を受賞しています。素晴らしい育種家さんですね。無農薬で秋まで葉をつける管理をするために一番大事なものは品種選びだなと痛感します。メルヘンツアウバーは昨年秋にとっても素晴らしい状態の花を見ることができ、そこから完全に心を奪われてしまったバラになります。名前の意味がドイツ語で「おとぎ話の魔法」という意味で、オーストラリアではそのまま英語訳した「Fairytale Magic」として売られています。ドイツ語に馴染みがないので調べる前は単純な固有名詞としてしか認識していなかったバラが名前の意味を知ると、ぐっと好きになることができたりします。バラは品種数も多く色々な名前がありますが、是非気に入ったバラだけでも名前の意味や由来を調べてほしいなと思います。そのバラのことをもっと好きになることができるはずですよ。



クリスマス オカリナコンサート

12月8日(日) 14:00～

場所：室内公園「色彩館」大温室

手作り雑貨のマルシェ

12:00～15:00

同日開催予定

室内公園「色彩館」ロビー



今月の市民園芸講座のご案内



●11月10日(日) 13:00～15:00 多肉植物の寄せ植えをしよう

材料費：2,200円(容器込み) 定員：20名 講師：椿 豊 さん

持ち物：筆記用具、持ち帰り用の袋または箱

●11月16日(土) 13:00～15:00

ローズヒップでクリスマスリースを作ろう

材料費：1,500円 定員：10名 講師：バラ園スタッフ

持ち物：筆記用具、持ち帰り用の袋または箱、

ラジオペンチ、花切りハサミ(お持ちであれば)

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話:0126-25-6111 ホームページ:<https://iwamizawa-park.com/>

※資料ご用意の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

連絡なしの欠席・遅刻はお申し込みをしたい方のご迷惑となりますのでご遠慮ください。

※材料費のかかる講座は、講師の準備等の都合上、開催日3～4日位前までに
お申し込みをお願いいたします。

※換気の為、扉・窓等を開放いたします。悪天の際は暖かい格好でお越しください。